

薬草栽培だより

No. 103 令和4年9月21日

富山県薬事総合研究開発センター
薬用植物指導センター

〒930-0412 中新川郡上市町広野 2732
電話 076-472-0801
FAX 076-472-0353

薬用作物生産技術確立プロジェクトチーム

1. 気象経過

6月の気温は一部地域で高くなった他は、平年に比べかなり高くなり、降水量は平年に比べ少ないか、かなり少なくなりました。その後7月の気温は一部地域で平年並みになった他は、平年に比べ高くなり、降水量は一部地域で平年に比べ多くなった他は、平年並みとなりました。また、8月の気温は一部地域を除いて平年並みとなり、降水量は平年並みか平年に比べ多くなりました。(富山地方気象台)

今後は、降雨後の停滞水を速やかに排水するため、排水溝・水吐尻を点検・整備しましょう。

2. シヤクヤクの栽培管理

(1) 掘り取り(収穫)

薬用品種「梵天」は、栽培年数4年を経た株を掘り取り、根を出荷しましょう。1株当たりの茎数が20本、生根重量が1.5kg位を目標とします。ただし、生育量が不足している場合は翌年回しでも構いません。ただし、5年を超えて長期間栽培すると根に腐りが入り、薬用としては品質が低下しますのでご注意ください。

(2) 掘り取り調製法

掘り取り時期は9月下旬～10月中旬頃、スコップや鍬等で根ごと掘り起こします。株を2～4個に分割し、芽の付いた株からゴボウ根を外し、袋(当センターが準備するガラ袋など)に入れます。根が乾かないように、日陰の涼しい所でビニールシートを被せるなどして出荷まで保管します。出荷期間は10月中旬～11月中旬で、準備が整った生産者の方は、一時保管場所である当センターまでご連絡ください。

掘り取り調製方法については、別途ご案内する研修会(本だより末尾参照)でご説明します。初めて掘り取る予定の方は、研修会にお申込みのうえご参加ください。

(3) 茎葉の処分及び追肥(10a当たり)

枯れ上がった茎葉には、斑葉病等の病害の胞子が付着し、来年の発生原因となることから、できるだけ地際から刈り払い、ほ場外で処分してください。

秋肥を10月に施用してください。

(10a当たり)		
1年生株(植付の翌年)	発酵鶏糞	150kg
2年生株・3年生株	発酵鶏糞	300kg
	磷加安15号	40kg

ビニールマルチ栽培の場合は、植株の中間に鎌等で穴を開け施用してください。

(4) 繁殖法

9月中旬～10月中旬に株分けし、植付け用の苗とします。株を掘り起こすと、頭根部(根茎)には多数の芽ができています。一苗당りに3～5つの芽が付くように、頭根部を分割します。

薬用品種「梵天」は、苗にはゴボウ根を付けず、新しく出た根を収穫出来るようにします。

株分けは、根黒斑病や根こぶ症状など病害虫の無い生育が良好な親株を用います。なお、相対的に生育の悪い株からは株分けを行わず、廃棄しましょう。



薬用品種「梵天」の苗

(5) 苗の定植

定植が遅れると新根の発生が不足し、翌年の生育が不良となることから定植は地温の高い10月下旬までが望ましく、やむを得ず遅れる場合でも11月上旬までには行ってください。

ほ場準備として、基肥(10a当たり)に発酵鶏糞 300 kg、苦土石灰 100 kg、過磷酸石灰 60 kgを全面に施用し、よく耕耘します。収穫作業の前に畦立てを完了させましょう。1条植えでの畦サイズ目安は、畦幅:120~130 cm、畦裾幅:80 cm、畦高:20~30 cmです。

面積が1aより大きい場合は、雑草対策のため黒マルチ(厚さ0.03 mm)の被覆を推奨します。

マルチに植え穴(株間:40~50cm)を開け、芽を上にして苗を植え付けます。覆土は3~5 cm。風によりマルチの穴がずれないように、植え穴に土を被せてマルチを押さえます。

3. トウキの栽培管理

(1) 抽苔開花株の抜き取り

花が咲いた株は、根が痩せ細り、薬用にはなりません。抜き取ってほ場外で処分してください。

(2) 追肥(10a当たり)

ダニによって葉が全部枯れた株でも根は残り、葉が再生してきますので、あきらめないでください。9月中旬頃硫酸を20 kg、又は尿素を10 kg追肥し葉の生育を促します。また、2回目の追肥を施用していない方は、まず化成肥料を20 kg施用してください。

(3) 掘り取り調製法

①掘り取りは、11月に入って、葉の先端部が少し黄色味を帯びた頃に行います。長く置けば根が充実しますが、富山では冬のしぐれがあり、作業がやりにくくなるので、圃場の面積、作業量を判断して、11月下旬までに掘り終えるようにしてください。

②葉を付けたまま株を掘り起こし、根の土を払い落としした後、3~4株ずつ束ね、風通しの良い所(雨が直接かからない軒先等)でハサ掛け(稲架掛け)のように干し、自然乾燥します。

③特に、根を積み重ねると数時間で堆積発酵し、中心部分が腐る原因になります。一旦腐りが入ると、どんどん拵がり、最後にはほとんど切り捨てなければならなくなります。切る手間もかかる上、大変な損失になります。このことから、ハサ掛けまで一晩置く場合は、地面に直接ひと並べに広げ

て置きましょう。

④ハサ掛け後は翌年の2~3月頃まで、そのまま自然乾燥しますが、途中、土が半乾きになった頃に、はたいて土を落とし、乾燥しやすいようにします。

⑤この後、生薬に仕上げるには「湯通し」の作業が必要です。設備がないために作業ができない場合は、この作業を行う前の状態(一次乾燥根)でも出荷できますが、可能であれば「湯通し」を行い、増収を目指しましょう。初めて「湯通し」をされる方は、当センターへお問い合わせ下さい。

4. 種苗の販売について

当センターでは、薬用植物の栽培普及のために、本県で出荷可能な品目の種苗を生産・供給しています。希望される方は当センターまでご相談ください。

5. 薬用植物指導センターからお知らせ

(1) シャクヤクの収穫調製研修会

日時 令和4年10月7日(火)10:00~

場所 農事組合法人徳成営農シャクヤク栽培ほ場(南砺市徳成627)

申込 富山県農林水産部農産食品課

電話:076-444-3284

FAX:076-444-4410

(2) 薬用植物講演会

日時 令和4年11月25日(金)

10:00~12:00

場所 富山県民会館704号室(富山市新総曲輪4-18)

演題 「愛媛県における薬用作物栽培の取り組みについて」

講師 愛媛県農林水産研究所主任研究員 白石 豊 先生

申込 薬用植物指導センター

電話:076-472-0801

FAX:076-472-0353

※新型コロナウイルス感染症のまん延状況等により、中止になる可能性があります。